

3月12日に「天理スポーツシンポジウム2011 未来を創る! ~天理 障害者スポーツ~」を開催した。

開会のあいさつを飯振政彦天理大学学長が行い、次に基調講演を行った。前日に起こった東日本大震災の影響で、当初、基調講演を行う予定だった障害者スポーツ研究の第一人者である矢部京之助氏(名古屋大学名誉教授、日本障害者スポーツ協会科学委員会顧問、元科学委員長)にお越しいただく事ができず、急遽、筆者が基調講演を行う事となった。その後、パネリストに競技者の立場から、アトランタ、シドニー、アテネパラリンピック柔道で金メダル、北京で銀メダルを獲得された藤本聰氏、指導者の立場から、日本身体障害者アーチェリー連盟副理事長、日本障害者スポーツ指導者協議会近畿ブロック会長である橋本和典氏、社会福祉研究者の立場から、天理大学おやさと研究所講師の八木三郎氏、障害者スポーツ研究者の立場から筆者の4名、アドバイザーとしてパラリンピックアーチェリーの選手で天理大学職員の中西彩氏が加わってパネルディスカッションを行った。最後に総括を深谷忠一おやさと研究所長が行い、閉会となった。

今回から数回にわたり、このシンポジウムの内容を紹介していく。第1回目は基調講演の内容を掲載する。

障害者スポーツ総論となる基調講演を、矢部氏に代わり、同じく障害者スポーツ研究をテーマとし、矢部氏とともに学会や研究会等で活動を行っている筆者が、矢部氏が発表する予定であった資料を基に筆者の経験も加えて講演を行った。

障害者スポーツ総論

矢部氏は1972年、愛知県心身障害者コロニーで障害のある人との出会いがあった。矢部氏は体育の専門家であるが、体育以外の専門家との交流を促進する事で、体育から離れて体育をみる事を考えた。なぜそのように考えたかという、体育界は体育の原点に関心が薄いと感じていたからである。

矢部氏とパラリンピックの出会いは1979年。イギリスに障害者スポーツの生みの親と言われるロードヴィヒ・グッドマン卿という医師がいた。グッドマン卿は当時、第二次世界大戦によって負傷した兵士が増加する事を見越した国から対策を相談され、様々な事を考えた。チャーチル首相らは、兵士の治療と社会復帰を目的にロンドン郊外にあったストーク・マンデビル病院内に脊髄損傷者センターを開設。その初代センター長にグッドマン卿が就任した。グッドマン卿は「失った機能を数えるな、残った機能を最大限に活かせ!」こういう言葉を残した。どういう事かという、例えば、戦争で足を失ったとすると、足を失った。何々ができない。歩けない。いろんな事ができない。そういう事を数えるのではなく、残っている部分に目を向ける。すると両手、片足、目、耳、鼻、口などいっぱいある。そういう部分を最大限に活かしていきなさいという事を提言したのである。スライドにはストーク・マンデビル病院に隣接するストーク・マンデビルスポーツセンターのゲートを示した。こ

のシンプルなゲートに注目してほしい。日本では競技場のゲートなどは非常に大きかったり、派手なように作られたりするが、ゲートなどそういうところにお金をかけるのではなく、シンプルでいいのだとおっしゃったのである。余談ではあるが、次回のオリンピックはロンドンである。ロンドンオリンピックのオリンピック、パラリンピックのマスコットキャラクターの名前はそれぞれ地名である。パラリンピックのキャラクター名は「マンデビル」で、このストーク・マンデビルからとっている。

では、日本の障害者スポーツの歴史はどういうものであるか。我が国における障害者スポーツの生みの親は、大分県出身の医師、中村裕博士である。スライドには1980年第6回パラリンピック競技大会、日本選手団役員の写真を示した。矢部氏とともに中村博士も写っている。中村博士はグッドマン卿と同じ考えを基に、「身障者に 保護より 働く機会を 太陽を」という言葉を残されている。中村博士はグッドマン卿の元で勉強をした方でアジアパラリンピック競技大会の先駆けとなったフェスピック(極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会)を開催する。中村博士は医師なので、障害を持った人々にはリハビリテーションも必要なのはもちろんそうであり、重度の方はなおさらそうであるが、そうした医療で保護をするだけではなく、働く機会を与えてくださいという事を言われ、「保護より機会」を与える事で障害者の社会参加促進に尽力をされた。そのために中村博士は障害者が働く場所を提供してもらおうと奔走された方でもある。「オムロン太陽」、「ホンダ太陽」、「ソニー太陽」など、聞いた事のある方がおられるかもしれない。中村博士が設立した「社会福祉法人太陽の家」と、その理念に共感した大きな企業の共同出資会社で障害者を多く雇い、働く場所を提供しているのである。以上のように、障害者を保護するばかりでもなく、働く機会を与えてくださいと主張するだけでもない。もちろん医療が元となっている障害者スポーツという中で、重度の方にはリハビリテーションは必要であるが、リハビリテーションの段階を超えた方達には働く場を与えて社会参加をさせてくださいという事を念頭に置いてスポーツが発展していくよう望まれた方である。

では、スペシャルオリンピクスという言葉を知った事がある方はおられるだろうか。スペシャルオリンピクスは知的障害者のスポーツで、日本では昨年、第5回夏季ナショナルゲーム・大阪が開催されている。スペシャルオリンピクスは、故ケネディ大統領の妹ユニス・シュライバーが設立した。世界的なムーブメントになっている。(続く)

